

中曾根の

軍事拡大・福祉切捨・行軍路線と

対決する決意を滿天下に示せよう

われらのこの健康を守る
闘いは、今、中盤戦にむけ
て着々と準備が進められてい
る。

センターでの署名は、すでに
国会へ請願書と共に提出され、
厚生省には要求書が提出
されてゐる。

大阪府へはデモを先かけ、民
生部に要求書をわたした。
今後は政府・厚生省との直
接交渉をめぐり、そして、
大阪府議会への請願を通じて
大阪府民生部への働きを強め
ることが課題となる。

日雇健康保険法の廃止をこ
りやめさせ、われわれの健康
保険、丹なご適用を維持拡大
する闘いの初盤戦をおえた時
点で、Xデーをおかえるに
あたり、さらなる団結と、集
会・デモ、斗争への参加を訴
える。

釜ヶ崎の闘いは模立した斗
いではない。
過去において、暴力手配師

追放、悪質飯場糾弾の闘いを、自らの身
体を使って、相手を目前に見せて闘い
続けてきた。

この釜ヶ崎の闘いの歴史は多くのの人々
から注目され続けていた。

そして、今回の日本名の反対署名は、
多くのの人に我々の団結力を示した。
自力自衛の歴史と今ある闘いと団結力
は多くの人達の、釜の闘いに対する共感
と協力を生みだしてゐる。

国会へ請願するにあたっては、我々には
紹介議員とてあてにできる代議士は
いなかったが、御蔭解散の闘いさになら
ないに、釜の闘いにも理解と共感を持って、釜ヶ
崎差別と闘う連綿会にも関わっている仲
間が、協力の手と差このやてくれ、福華
国会へ仲間連の意志を伝えることができ
ただけでなく、今後の闘いに有利な情況
をも拓くことができた。

また、大阪府へ要求書を渡すにあたつ
ても、釜ヶ崎の闘いと連帯する府会議員
の協力を得てゐる。

これから府議会へ請願行動を方々に
ついても、多くの府会議員の協力が必要
だ。闘い続ける限り多くの協力が得
られることだろう。(つらへ編)

万国の労働者団結せよ!

我々の請願に対する支持署名も現在集め始められており、これに対しても多数の個人あるいは労働者などの団体の力がよせられることだろう。

釜ヶ崎の我々の闘いが孤立したものでないことは、今の国会の動きを見てよくわかる。

我々の反対署名には、健康保険法改善反対もあけられている。これは直接的には、日雇健保が廃止されたあと、健康保険法の中に、日雇特別被保険者として組み入れられ、医療費の本人一割負担などの不利な条件を押しつけられることがないように、というところからだ。

だが、それだけではなく、中曽根の選挙区を拡大し、福祉を切り捨てる行革路線が許せなければならぬ。

この思いは、我々のものだけでなく、多くの斗争人と共通のものである。一國の総理が一括決めた外国訪問をとりやめざるを得ない事態が、それを証明している。

釜ヶ崎においては就労申告書が廃止され、年末年始の臨時宿泊所は年々縮少されて、正月三日の受付料を打ち切られていた。そして今、我々のいのちと健康を守る健康保険まで取り上げられようとしている。

再度、言おう。福祉の捨てた快挙の我々の闘いは、決して孤立したものでなく、また、我々だけの闘いでもない。なぜなら、今の体制のシロ寄せをよ

り強く受けるのは我々であることは確かであるが、より広範な労働者も同じ様な目にあっており、全国各地で闘いが繰りまわっているからである。

今の世の中は、血も涙も、肉体すら持たぬ会社、法人を中心に動くくみになっている。金だけの存在がより多くの金を集めよというシステム、それによっているサラリーマン経営者達が、自身の人間の生活をオモチャにしている。

日本の国家財政の破たんは、生身の人間を大切に守るのではなく、肉体を持たぬ会社、法人を大切にこそしたことから生じたのだ。にまかかわらず、金のありあまっている会社、法人から金とらば生身の人間にシロ寄せして切り捨てようというのが、中曽根、財界一体と云った行革、路線なのだ。

生身の人間として雄々しく闘おう。斗争することによって選挙が生じる。メーデー

4/30 Xデー前夜祭
5/1 Xデー
全日労働争議団
1984-4-26 西成区文庫 2-5-23 TEL 626 1632 4273